

寺町通

Teramachi-dori



京都のINGを
CHECK IT OUT!!

ロコミ
情報
カタログ

THIS MONTH
TOP
NEWS

檸檬と焼芋を手にして ぶらつくも絵になる通

四条通より南が電気街、三条通以南は商店街。それが御池以北に来ると急に落ち着きをみせる骨董街となる寺町通。梶井基次郎が小説「檸檬」の舞台にした道として名高い。主人公がレモンを一つだけ買ったとされる果物屋「八百卯」は今も健在で、もちろん常にレモンは店先に山積み。憂いに乏しい現代っ子ならさしずめ、八百卯より少し北の「川越芋」でヤキイモでも買うところか。どちらにせよ、ゆったり想像力を膨らませるには最適な道。

寺町通
てらまちどおり

「御所みなみ」縦無尽 1200年間の道のり

古都のヘソ・御所につながる今特集エリア。平安時代から脈々と続く道、豊臣秀吉の京都大改造計画によって作られた道。そして内裏と周辺を丸々焼き尽くした大火事や、幕末の抗争が生んだ道がある。建設と破壊が重なった道のりだ。

実ある行動の代価は
名前ですら守ったプライド

左記の新堀木町と同じく、御所の拡大整備に土地を献上した替地として移り住んだ通。移住前のルーツは、烏丸通丸太町上ル東側だ。移転はしても名前は元を思ふ形で…と「新」の冠をつけたという。実はこの二つの他にも同じく「新」づけで移転した通がある。川端通の東・仁王門通沿いに存在する南北の道々で、丸太町～麩屋町がごっそり移動している。名前というアイデンティティと引き換えに献じた協力で、京都人のプライドが見て取れる。



新烏丸通

Shinkarasuma-dori

堺町通

Sakaimachi-dori

柳馬場通

Yanaginobanba-dori

富小路通

Tominokoji-dori

麩屋町通

Fuyacho-dori

御幸町通

Gokomachi-dori

河原町通

Kawaramachi-dori

道を北上して突き当たりが御所の九門のひとつ、堺町御門。戦国期にはこの道が町と野原の境（＝堺）だった。

京都市指定文化財・京都ハリストス正教会がひとまね目を引く。淡いブルーのロシア・ビザンチン様式が秀逸。

平安時代には隣の麩屋町を富小路と言った。現富小路は、秀吉の京都大改造で生まれた新道。職人の町だった。

御池以南には高級旅館が並ぶが、通名の由来とされる豆腐・麩屋町の店は現在、御池上ルの「温泉亭」ぐらゐ。

これも初見では読みづらい通名。あゆきまちでなく、ごこまちが正解。当エリアを活気づかせた先駆者の道だ。

今でも京都有数の大通りだが、秀吉時代の誕生当時はまだ東横は河川敷。豊長の東高瀬川開削で開発された。

丸太町通

Marutamachi-dori

御所の南辺をなぞる丸太町通。明町付近には神祇店が今も並ぶ。明治維新の政変で一躍、表舞台となった道だ。

竹屋町通

Takeyamachi-dori

寺町を境に折れ面がる竹屋町。ちょうどその角にあるのが天台宗の巡礼聖地・華严寺。難多で歴史的な道だ。

二条通

Nijo-dori

この通も寺町を境に曲がる道。柳馬場付近には秀吉公認の遊郭があった。問之町以西は和装の町としても高名。

押小路通

Oshikoji-dori

柳馬場の京鎗商店。染木屋は全国に有名。大江鉦楽堂があり、芸術の巨匠も輩出するなど文化的な道でもある。

御池通

Olke-dori

祇園・時代の二天祭が繰り返る祭道で、京の目抜き通り。遊駐時は市役所前がテニスコートや野楽場になった。



夷川通

Ebisugawa-dori



家具の町・夷川商店街はちょうど烏丸通から寺町通の間に合致する。界限では珍しく対面通行のこの道は家具屋で埋め尽くされている。その数はざっと60。京都府の家具売上げの4割はここ夷川通で買われるものだ。明治維新を控えた幕末の抗争で、丸焼けになった京都の家々の畳や建具をまかなったことが、この町の発展になった。昔ながらの和家具や婚礼家具の店に加え、中古やアジアン、ヨーロッパなど生活バリエーションには事欠かない。

京の暮らしづくりを創る
「よう間に合う」通



新榎木町通

Shinsawaragicho-dori



新と言っても300年
それが京都の時間軸

そもそも「新」のつかない榎木町通は丸太町通の一本北にあり、新榎木町通とは垂直になる東西の道。それがここ寺町通と河原町通の間にリニューアルした理由は江戸時代に遡る。1708年、市街地の1/4をなめつくした大火事「宝永の大火」によって、御所は拡張をとまなう再築を果たした。その際に御所の敷地に取り込まれてしまった榎木町の一部分を、「新」と名づけて移したわけである。右記の新烏丸通も含め、強制移転された町は27に及んだ。

東西の通り

南北の通り

烏丸通

Karasuma-dori

平安京では烏丸小路と呼んだ12m幅の道が、今や20m級の天道路。明治の京都駅設置から華々しく拡張された。

車屋町通

Kurumayacho-dori

御秀吉以降、車廻院の交通量をサポートする存在だったから「車屋」町。道の南端・姉小路に車業者が多かった。

東洞院通

Higashinotoin-dori

平安京時代は大路と呼ばれた東洞院、江戸時代も隆盛し、交通渋滞はピーク。日本初の一方通行規制となった。

間之町通

Ainomachi-dori

秀吉による都市計画で、高台と東洞院のあいだに作った新道だからこの名前。途切れつつも七条まで続く道だ。

高倉通

Takakura-dori

平安京時代から、貴族の邸宅や堀内表として栄えた通。神護八幡宮に水庵寺、浄光寺と寺社仏閣は今も多い。